



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年11月28日

我孫子市小中一貫教育だより
第392号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

「未来に残してつなぐ ふさカリキュラム」～布佐中・1年生「自分発見学習」

布佐中学校1年生がオリジナルカリキュラムの一環で、総合的な学習の時間で「自分発見学習」を実施しました。「自分発見学習」はキャリア教育と関連付けており、2年後の進路、その先の将来を見据えてカリキュラム構成されています。本時の授業では「自分の将来について考えよう」という題材のもと小学校から引き継いだキャリアパスポートとタブレット機器を持参した1学年の生徒たちがアクティブラーニング教室に集合しました。

「将来の夢について語り合おう。」「どんな生き方をしたいか考えてみよう。」先生からの提案に生徒たちはすぐさま近くの仲間と話し合いを始めました。自分の夢を互いに語り合う中で、「生きていく上でのお金」について話題になりました。そこで、先生から「お金とは一体何なの?」と問われ、答えを見つけるために話し合う子、タブレットで調べる子、自分の考えを周りの子に説明する子と思い思いにお金について考え始めました。先生から歴史と絡めたお金の成り立ちを教わり、お金に対する知識を深めた後「お金は人生を豊かにする道具ではないか。」という先生からの問いに「なるほど!」「むずかしいな～。」「ガチで納得する。」といった声があがりました。

まとめに「将来こんな生活・こんなことをしてみたい」について考え、仲間と共有しました。生徒たちから「募金とか人のためにお金を使いたいです。」「美容院を継ぎたいです。」「絵を描くための道具をそろえたいです。」と色とりどりの夢が発表されました。次回は、やりたいことをかなえるために職業について考えることになっています。布佐中学校では、小学校から引き継いだキャリア学習を中学校でのキャリア学習につなげていました。



「こほく・あらきふれあいカリキュラム」～新木小・5年生「高齢者との共生社会を考えよう」



新木小学校5年生、総合的な学習の時間でオリジナルカリキュラムの授業が行われました。高齢者疑似体験を通して学んだことを生かして、11/16(日)に行われる地域の催し『「こほく・あらき福祉まつり」で地域の方とふれあう』ことが授業のねらいです。なんと、5年生は総合的な学習の時間で野菜の栽培に取り組んでおり、福祉まつりに参加し、収穫した野菜を販売する予定だそうです。

導入では、担任の先生が「高齢者疑似体験をふり返ってどんなことを感じた?」と発問すると、「高齢者の大変さがわかった。」「体が動かしづらくて大変だった。」などの感想がどんどん発表されました。「そのような高齢者の大変さがわかったうえで、どのように接したら良いかを考える」ということから学習が展開されます。

まず、「足が不自由な高齢者をコホミン2階にある販売所に案内する」ことを想定します。子どもたちはタブレット端末を活用して、「手すりの反対側で支える。」「荷物を持ってあげる。」など、自分の考えを入力していきます。大型ディスプレイには、みんなの考えが映し出され、自分と同じ考えや違うけどいいなと思った考えにリアクションをとります。協働的な学習の時間です。次に、「耳が不自由な高齢者に野菜販売の接客をする」ことを想定します。「紙に書いて伝える。」「口をはっきり動かして話す。」「相手の目を見て話す。」などの考えが出ました。

最後に、まとめの場面で「相手を気遣うこと。」「周りをしっかり見ること。」など、高齢者に限らず、全ての人のためにできることが大切だということに、子どもたちは気づきました。野菜販売当日では、高齢者疑似体験から学んだこと、そして今回の学習を通して学んだことを生かして、全ての人を気遣い思いやりをもって接することができると思います。